

次の漢文の書き下し文に従って返り点をつけなさい。
ただし、返り点が不要な欄には×を書きなさい。

(1) 歲月は人を待たず

歳 月 不 待 人

(2) 人は木石に非ず

人 非 木 石

(3) 義を見て為さざるは勇無きなり

見 義 不 為 無 勇 也

(4) 思邪無し

思 無 邪

(5) 食らざれば其の旨きを知らざるなり

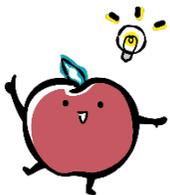
弗 食 不 知 其 旨 也

(6) 計るに従りて得る無し

計 無 従 得

(7) 百聞は一見に如かず

百 聞 不 如 一 見



次の漢文の書き下し文に従って返り点をつけなさい。
ただし、返り点が不要な欄は空欄にすること。

(1) 己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ

己 所 不 欲、 勿 施 於 人

(2) 君笑ふこと莫かれ

君 莫 笑

(3) 子敢へて我を食らふこと無かれ

子 無 敢 食 我 也

(4) 過ちては則ち改むるに憚ること勿れ

過 則 勿 憚 改

(5) 吾が仁を傷つくること勿かれ

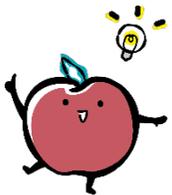
勿 傷 吾 仁 也

(6) 己の長を説くこと無かれ

無 説 己 之 長

(7) 妄言する毋かれ

毋 妄 言



漢文

年 組 名前 ()

次の漢文の書き下し文に従って返り点をつけなさい。
ただし、返り点が不要な欄は空欄にすること。

(1) 常の馬と等しからんと欲するも、得べからず

欲 与 常 馬 等 、 不 可 得

(2) 之に鳴けども其の意に通ずる能はず

鳴 之 不 能 通 其 意

(3) 尽くは信ずべからず

不 可 尽 信

(4) 臣は官を越えて功有ることを得ず

臣 不 得 越 官 而 有 功

(5) 佳人を懐ひて忘るる能はず

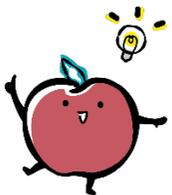
懐 佳 人 今 不 能 忘

(6) 莊撃つを得ず

莊 不 得 撃

(7) 退きては相忘るるを得ず

退 不 得 相 忘



漢文

年 組 名前 ()

次の漢文の書き下し文に従って返り点をつけなさい。
ただし、返り点が不要な欄は空欄にすること。

(1) 家貧しく常には油を得ず

家 貧 不 常 得 油

(2) 然らずんば、何を以て此に至らん

不 然 、籍 何 以 至 此

(3) 書を読むを好むも甚だしくは解することを求めず

好 読 書 、不 求 甚 解

(4) 禍災に遇ふ者、勝げて数ふべからざるなり

遇 禍 災 者 、不 可 勝 数

(5) 勇者は必ずしも仁あらず

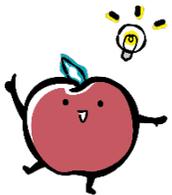
勇 者 不 必 有 仁

(6) 今両虎鬪はば、其の俱には生きざらん

今 両 虎 鬪 、其 勢 不 俱 生

(7) 兔は復た得べからず

兔 不 可 復 得



漢文

年 組 名前 ()

次の漢文の書き下し文に従って返り点をつけなさい。
ただし、返り点が不要な欄は空欄にすること。

(1) 偶名酒有り、夕べとして飲まざること無し

偶 有 名 酒 、無 夕 不 飲

(2) 教へに非ざる無きなり

無 非 教 也

(3) 寒きを悪まざるに非ざるなり

非 不 悪 寒 也

(4) 足らざる所有れば、敢えて勉めずんばあらず

有 所 不 足 、不 敢 不 勉

(5) 天下君の賢を称せざる莫し

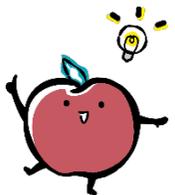
天 下 莫 不 称 君 之 賢

(6) 弟子は必ずしも師に如かずんばあらず

弟 子 不 必 不 如 師

(7) 兔は復た得べからず

吾 未 嘗 不 得 見 也



得点 /70

漢文

年 組 名前 ()

)

次の漢文の書き下し文に従って返り点をつけなさい。
ただし、返り点が不要な欄は空欄にすること。

(1) 不者んば、若が属皆且に虜とする所と為らんとす

不 者 、若 属 皆 且 为 所 虜

(2) 言有る者は必ずしも徳有らず

有 言 者 不 必 有 徳

(3) 遂に去って復た与に言はず

遂 去 不 復 与 言

(4) 秦人之を視て、亦甚だしくは惜しまず

秦 人 視 之 、亦 不 甚 惜

(5) 農の時を違へずんば、
穀勝げて食らふべからざるなり

不 違 農 時 、穀 不 可 勝 食 也

(6) 黄鶴一たび去りて復た返らず

黄 鶴 一 去 不 復 返

(7) 懿敢えて逼らず

懿 不 敢 逼

